

世界を体感した「平和の波」と 継続する大切さが見えた1週間

原爆投下75年にあたる今年、原水爆禁止世界大会の開催様式は、新型コロナウイルスの世界的流行を受けて、様変わりしました。北医療生協ではこの期間に提唱されていた「平和の波」行動に応じて、2日国際会議オンライン傍聴、6日「平和の波」スタート街頭署名行動、9日原水爆禁止2020年世界大会長崎デーのオンライン傍聴など、地域の諸団体とともに取り組みました。特に核兵器禁止条約に向き合う世界の潮流と日本の姿勢のコントラストは、この期間のハイライトでした。核の傘のもとにある日本は厳しい安全保障環境を理由に参加していませんし、安倍首相の広島・長崎の挨拶では、一言も触れられませんでした。一方、世界の動きは6日に3か国9日に1か国が条約を批准して条約発効まで後6か国を残す状況となりました。世界は確実に前進しています。

オンライン会議も新鮮な驚きで傍聴できました。多彩な参加者の発言を聞く機会となりました。2日のサーロー節子さんの「安倍首相には、被爆国として日本は特別な道義的責任があり、核廃絶運動のリーダーとなるべき」との主張には共感するとともに、無視を続ける安倍首相の姿勢には「怒り」さえ感じました。



8.6 平和の波行動



原水爆禁止世界大会
オンライン傍聴の様子